

ベネズエラの最新動向(3月~4月)

本レポートは、国際協力銀行ニューヨーク駐在員事務所が、ベネズエラの政治・経済・外交・資源セクター等の最新動向に着目して、現地報道などの公開情報を中心に情報収集し、取り纏めたものです。

I. 政治・経済

1. マドゥーロ政権の影響下にある検事総長、グアイド氏への圧力を強める

- サアブ検事総長は4月7日、与党主導の国民議会に出席し、2021年の検察庁の活動について報告。サアブ氏は、同報告で、「グアイド氏が関与する23件の罪状で捜査を行っている」と説明。具体的な罪状については、「違法にCITGO役員を任命したこと」、「人道支援金の横領」、「英国銀行に保管するベネズエラ中銀の金準備を奪おうとしていること」などを挙げている。
- アモロソ会計監査総長も与党国民議会にて、2016年~2020年年にかけて野党議会が犯した罪について「ほぼ全ての捜査が終了している」と指摘。また、検察庁と共同で捜査を進め「グアイド議長を拘束するために全力を尽くす」とし、強硬姿勢を強めている。
- 他方、マドゥーロ大統領も4月5日に、人権団体や穏健派野党などとの会合を積極的に実施する等、野党内派閥の分裂(グアイド派の弱体化)を図っており、また、グアイド派を含む強硬派野党の与野党対話への参加を拒否するとの姿勢を示した上で、グアイド派の排除を与野党対話再開の条件としている。

II. 外交

1. アルゼンチンとエクアドル大統領、マドゥーロ政権を正統なベネズエラ政府と認識する考えを示唆

- アルゼンチン・フェルナンデス大統領とエクアドル・ラッソ大統領が4月18日にブエノスアイレスにて首脳会談を行い、対ベネズエラ外交について、「マドゥーロ政権を正統なベネズエラ政府と認識し、外交関係を再開させる考え」を示唆。両首脳は、他のラテンアメリカ諸国に対しても、対ベネズエラ外交方針の見直しを検討するよう求めている。
- ベネズエラ国内では、野党指導者であるグアイド氏の求心力が失われ、政権交代(マドゥーロ退陣)が実現することはないとの見方が強まっており、こうした状況の中、国際社会では、マドゥーロ政権をベネズエラ政府と認めた上で、与野党対話を再開させる動きが強まっている。
- 2019年1月にグアイド暫定政権が発足した当時は、ラテンアメリカ諸国の大半が、グアイド暫定政権を正統なベネズエラ政府として認識していたが、国際社会の後押しにもかかわらず、政権交代は実現しておらず、グアイド暫定政権の正統性の裏付けとなっていた野党主導の国民議会の任期も満了(2021年1月)したことで、その正統性への疑念が高まっていた。
- 米国は引き続き、グアイド暫定大統領と野党指導の国民議会への支持を表明しているものの、2022年3月には、米政府高官がマドゥーロ政権高官と直接対話を行うなど、マドゥーロ政権に歩み寄る

姿勢も見せている。他方、野党強硬派(グアイド派)やルビオ米上院議員(共和党、フロリダ州選出)は、アルゼンチン・エクアドル両首脳の発言を強く非難しており、引き続きマドゥーロ独裁政権への圧力を強めるべきとの姿勢を示している。

2. マドゥーロ政権、トルコやイランなどの同盟国との関係強化へ

- マドゥーロ大統領は 4 月 29 日、ベネズエラを訪問中のトルコのチャウシュオール外務大臣と会談。マドゥーロ大統領は、チャウシュオール外務大臣と二国間協力協定を締結し、トルコからの更なる投資を歓迎すると表明した上で、産業・商業・食品・テクノロジー・重工業・通信・医薬品・観光・原油ガス・石油化学などの分野でベネズエラへの投資を拡大するよう呼び掛けた。マドゥーロ大統領によると、トルコはこれまでにベネズエラにて 8.5 億ドルの投資を行っているとされる。
- マドゥーロ大統領は、同じくベネズエラを訪問中のイランのオウジ石油大臣とも会談し、米国による経済制裁が続く中で、両国の経済関係の強化を目指すとしており、同盟国との積極的な外交活動を進めている。

III. 石油その他の資源セクター

1. 2022 年 3 月の産油量、大幅な変動は見られず＝原油価格は大幅上昇

- OPEC は 4 月 12 日に公表した石油月報で、2022 年 3 月のベネズエラの産油量が前月比 1.2%増の 69.7 万バレル/日だったと発表。同統計は、OPEC が二次情報源(Secondary Sources)から集めた情報を元に算出したものであるが、ベネズエラ政府が自己申告した統計(Direct Communication)においては、2022 年 3 月の産油量は 72.8 万バレル/日と前月の 78.8 万バレル/日から減少。ここ数カ月においては、ベネズエラの産油量に大幅な変動は見られていない。
- 他方、2022 年 3 月のベネズエラ原油価格(Meruy)は、前月比 24.1%高の 88.12 ドル/バレルと高水準で推移しており、OPEC 加盟国平均(前月比 20.8%高)を上回る値上げを記録している。
- 2022 年 3 月のベネズエラの石油輸出量は、衛星画像データを用いた推定によると、前月比 1.0%減の 52.0 万バレル/日とされ、ほぼ横ばいで推移。また、衛星画像によると、Puerto Jose 石油ターミナルで、多数の石油タンカーが立ち往生していると見られ、何らかの理由で石油輸出に遅れが出ている模様。
- 輸出先については、引き続き中国(45.9 万バレル/日)がベネズエラ産原油の主要な買い手となっており、割安なベネズエラ産重油に対する需要は引き続き高いとみられている。

以上

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。